

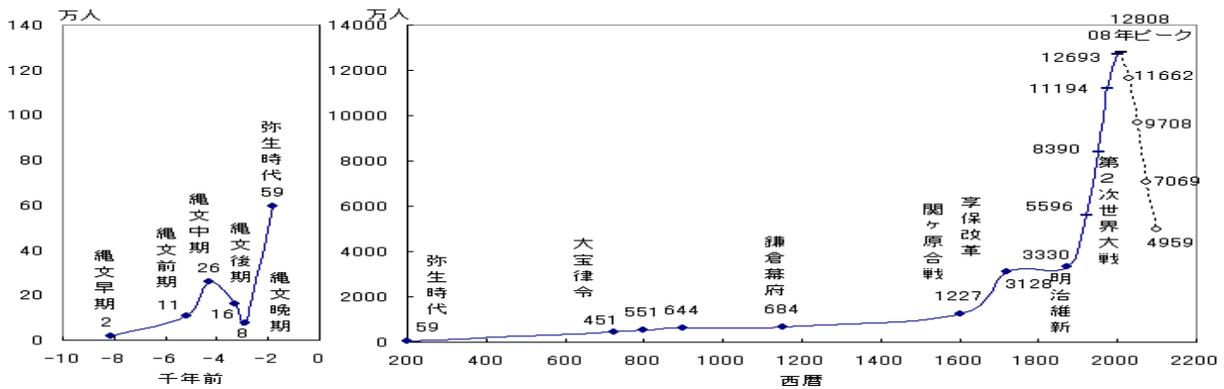
地域の高齢化、近所の人たちと話す機会の減少など、地域の人たちの交流が疎遠になりつつあります。住んでいる所に誇りや親しみを持ち続け、お互いに助け合い、安心して暮らし続けるためにどうしたらよいのでしょうか。

今年度、年6回の講座を開催し、住民と市職員が一緒になって考えていきます。第1回、第2回を開催しましたので、皆さんに報告します。（平成 26 年 7 月）

第1回 講演会『常滑市らしい住民協働を考える』

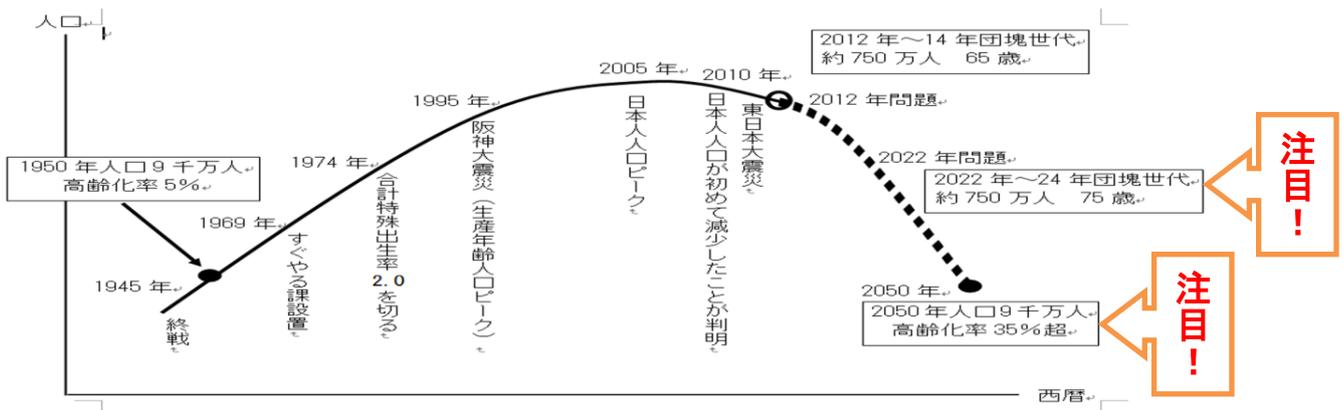
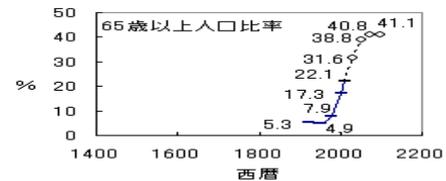
平成 26 年 5 月 25 日（日）、講師に岩崎恭典教授（四日市大学）を迎えて講演会を開催しました。資料や講師発言、参加者アンケート結果の一部を紹介します。

人口の超長期推移



（資料）

明治維新までは鬼頭宏「人口から読む日本の歴史」（2000）（“-”）
1920年、50年、75年、2000年は総務省「国勢調査」、2008年は総務省「推計人口」、（“-”）
2030年、2050年、2075年、2100年は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（2012年1月推計）」の出生中位（死亡中位）推計（“-o-”）



常滑市データ

- ・現在、高齢者1人を2.5人の生産年齢人口（15～64歳）で支えている
- ・地区によって、高齢者1人を支える生産年齢人口は0.8人～4.0人と格差が大きい

<講師より>

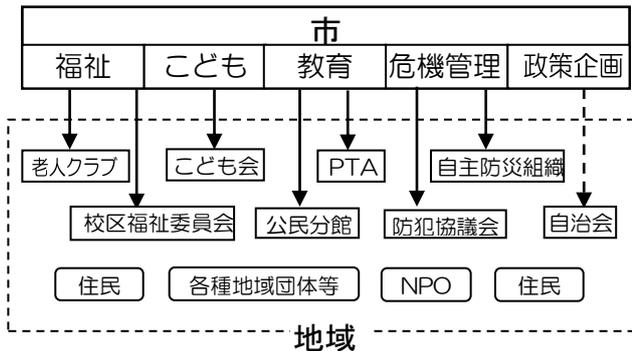
5年後 10年後、各地区はどうなっていくのか、地域でどのように高齢者を見守っていく仕組みを作るのか、災害時にそのお年寄りをどのように救うのか、一つひとつ段階を踏んで、組織を作らざるを得ないと思う。

参考

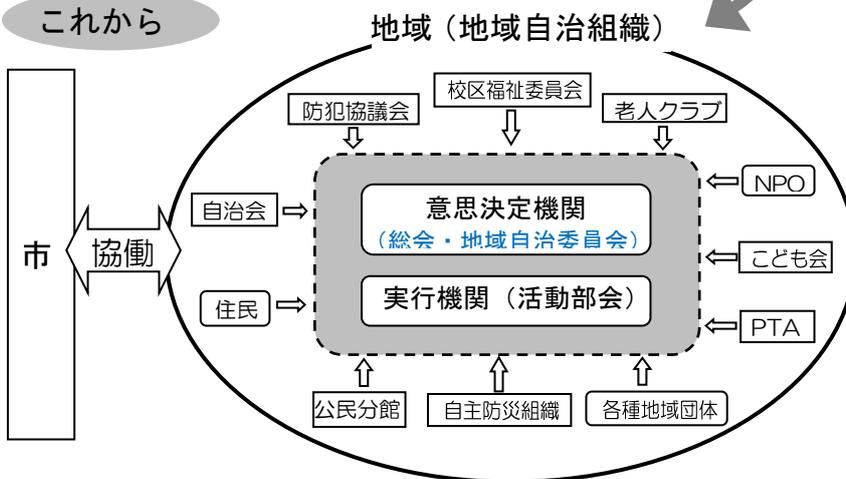
図 豊中市における地域自治システムの全体像(イメージ)

地域と市が部局ごとにつながっていた関係に加え、地域内で横につながる仕組みです。

これまで



これから



<講師より>

行政からの情報開示として、もちろん財務状況も重要だが、地域にどれくらいお金が流れているのかを伝えることも必要。

市職員が地区のまちづくりに協働で参加するのは非常に重要だと思うが、市職員の業務範囲は、地区の皆さんが行うことを支援することであるという明確な市長の方針や宣言が必要になると思う。

地域で市職員は鍛えられるし、逆にそういう地域であってほしい。役所に「あれやれ、これやれ」ではなく、「あれをやるために俺たちはこれをやる、じゃあ市は何ができるのか」というような話し合いの場をつくるのが重要だと思う。

参加者の声

★印象に残った内容

- ・10、20年後を考えなければいけない(地区参加者)
- ・少子高齢化など人口動向を踏まえた将来計画の必要性を感じました(個人参加者)
- ・国が実現しようとしている「地域包括システム」は、地域が中心とならなければできないことを認識しました(市職員)

★地区住民がすべきこと

- ・地域の問題を自分たちで話し合い、解決していく(地区参加者)
- ・自助の考えを浸透させる(他力本願では駄目)(地区参加者)
- ・まずは町内会に加入して、居住地区のことを知る(町内会未加入者が多すぎる)(市職員)

★行政がすべきこと

- ・住民に求めることを具体的に示す(市職員) ・各地区に合った協働(地区参加者)
- ・縦割行政の改善(個人参加者) ・ここまでしか出来ないと行政の限界を示すこと(地区参加者)
- ・地区行事に積極的に参加し、よく話を聞き、サポートできることは何かを考える(市職員)

★地区住民として取り組もうと思ったこと

- ・草刈り、防災訓練、地域パトロール(地区参加者)
- ・挨拶をする地区にする(地区参加者)
- ・顔の見える関係を作り、やってみたいことがある人には可能な限り協力する(市職員)

★市職員として取り組もうと思ったこと

- ・各地区のことを知る(市職員)
- ・市民とのコミュニケーションを大切にし、信頼関係をつくる(市職員)

第2回 『楽しい会議でまちづくり ～みんなで一緒に楽しく話し合い～』

平成 26 年 7 月 6 日（日）、講師に会議ファシリテーター普及協会の釘山健一氏、小野寺郷子氏を迎えて講座を開催しました。当日の写真や参加者アンケートの一部を紹介します。

全てに目新しいものばかり、うまく人を動かす「コツ」を知った。（地区参加者）

まちづくりに大切なのは、まず、楽しく語り合う場を作ることということがわかった。（市職員）

人を動かすには、「楽しい時」「身の丈」「雰囲気」「スキルを身につける」。納得です。（地区参加者）

地域の方々の意見を聞く事のできる場が、常滑にはほとんどない事に気付きました。（市職員）

地域の人々と語り合う機会の必要性を知った。（地区参加者）

まちづくりのためのスキルを学ぶ全 8 回研修を企画してほしい。（地区参加者）



協働って難しく考えすぎてしまうが、“楽しくやること”で肩の力が抜けた気がする。（市職員）

とにかく「楽しく」という事を心に置いていきたいです。ムードのない、これまで、つまらない会議ばかりしていた事が思い起こされます。（市職員）

様々な会議、話し合いを楽しくしたいと思った。そこから何かが生まれてくると感じた。（当日参加者）

10 年後、20 年後を考え、学生から参加できるサロンの場を作る必要がある。（地区参加者）



計画の策定や市民の意識を聞きたい時などに使いたい。(市職員)

防災の役員会で使いたい。(市職員)

区の行政全般に活用していきます。(地区参加者)

講座内容から一部抜粋

- ・会議は「**気楽に、楽しく、中身濃く**」…笑顔・拍手の重要性
- ・市民討議会の目的
 - ①地域のことを語り合う場②**まちづくりって楽しいねっていう人を増やす**
- ・協働とは…「**市民と行政が一緒にやること**」 コツは「**楽しくやること**」
×NGワード:「問題」「課題」、(共通の)「目的」「目標」、「対等」
- ・人はいつ動く?
 - ①**楽しいとき**②**身の丈**③**雰囲気**④**スキルを身につけた時**
※人を変えることはできないが、雰囲気に吞まれて人は変わる。

常滑市地区まちづくり講座 次回以降の案内

主催 常滑市・常滑市市民協働推進委員会

開催日時	内容	講師
【第3回】 9月27日(土) 14時～	先進地区事例学習 ・飯田市上久堅地区の住民主導の取組み ・飯田市における地区まちづくりのしくみ	上久堅地区 長谷部三弘氏 飯田市公民館 木下巨一氏
【第4回】 11月16日(日) 14時～	先進地区事例学習 ・地域の良さを活用したまちづくりと防災まちづくり	半田市岩滑区 遠藤孝司氏
【第5回】 1月	先進地区事例学習 ・地域担当制(行政による地区のサポート体制)	高浜市
【第6回】 3月	まとめ(振り返りと今後の取組みについて) ・講座の振り返り ・グループでの話し合い など	

開催場所:常滑市役所

※観覧希望の方は事前申込不要ですので、お誘いあわせのうえお越しください。

問合せ先	常滑市総務部安全協働課(市民協働チーム) 〒479-8610 常滑市新開町4丁目1番地 TEL:0569-47-6108 FAX:0569-35-7879 Eメール: anzenkyodo@city.tokoname.lg.jp
------	--